

(提案様式1)

平成24年1月17日

提 案 書

申請団体名 ふるさと福島復興プロジェクトチーム
 代表会社名 株式会社 武藤工務店
 代表者名 代表取締役 武藤
 代表者住所 田村市船引町今泉字田中 71番地
 電 話 : 0247-82-4101
 F A X : 0247-82-0772



主な活動地域（複数ある場合は優先を付けて①,②…,⑧と表示してください）
 ※会社の現住所ではなく、住宅供給活動を行う地域としてください

 喜多方

 県北

 ③相双

 会津若松

 ①県中

 南会津

 県南

 ②いわき

団体内の総会社数 (41社)

総業種数 (20種)

	代表設計事務所	代表工務店	林業・木材関係 事業者
会社名	武志一級建築士事務所	(株)武藤工務店	田村森林組合
住所	田村市船引町今泉 字田中 71 番地	田村市船引町今泉 字田中 71 番地	田村市常葉町西向 字堂ヶ入 62-7
電話番号	0247-82-4101	0247-82-4101	0247-67-1011
代表者名	代表取締役 武藤 武	代表取締役 武藤 武	代表理事組合長 早川 英二
設計事務所登録番号/ 建設業登録番号/ 木材業者登録番号	一級建築事務所 福島県知事登録 第 12(203)0779	一般建設業 福島県知事許可(般-18) 第 13744 号	製材業者 第 22132 号

(提案様式 2 - 1)

連携団体内会社一覧

設計事務所 <u>6</u> 社 ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な分野
1	武志一級建築士事務所	田村市	武藤 武	建築設計
2	遠藤求建設計	田村市	遠藤 求	建築設計
3	Y ' s 設計室	郡山市	柳沼 広美	建築設計
4	Drawing notes 他 2 社	東京都目黒区	平井 充	建築設計

施工 <u>10</u> 社 ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	職種
1	(株)武藤工務店	田村市	武藤 武	工務店
2	(株)都路林産開発	田村市	吉田 吉一	工務店
3	(有)松本木材店	葛尾村	松本 光昭	工務店
4	桂建設(株) 他 6 社	富岡町	渡邊 正義	工務店

林業・製材業 <u>2</u> 社 ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	田村森林組合	田村市	早川 英二	林業・製材
2	ふくしま中央森林組合	小野町	渡辺 一夫	林業・製材
3				
4				

資材メーカー <u>5</u> 社 ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な取扱
1	岡田電気産業(株)	いわき市	岡田 大輔	建材
2	ハイビック市売北日本(株)	郡山市	杉山 晃	建材
3	笠原工業(株)	須賀川市	笠原 賢二	建材
4	郡山生コンクリート(株) 他 1 社	郡山市	綾 哲志	生コン

宅建業 <u>3</u> 社 ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	備考
1	アップポイント	田村市	佐久間幸彦	不動産
2	大安エステート	三春町	三瓶 文博	不動産
3	(株)都路林産開発	田村市	吉田 吉一	不動産
4				

(提案様式2-2)

その他 28 社 ※提案様式2-1に記載した数を除く				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	笠原工業(株)	須賀川市	笠原 賢二	建築設計・工務店
2	平河内工務店	田村市	平河内一博	建築設計・工務店
3	(株)宇佐美建設	いわき市	宇佐美鐵男	工務店・土木
4	(有)信和創建	三春町	三瓶 信	工務店・土木
5	蒲生工業(株)	田村市	会田 清	工務店・土木
6	大和建设工業(株)	金山町	長谷川恒雄	工務店・土木
7	(有)鶴生建設	三春町	佐藤 サヨ	土木
8	(株)石覚組	小野町	石井 幹也	土木
9	(株)人輝	郡山市	小沼 輝雄	土木
10	(有)歩	三春町	白岩 良子	土木
11	(有)松本石材建設	葛尾村	松本 信子	石・土木
12	(株)フクイシ	田村市	佐藤 利男	石・土木
13	(株)磐梯園	郡山市	佐久間 洋	造園
14	(株)花喜	郡山市	府中 孝義	造園
15	(有)三輪電設	田村市	三輪 善治	電気
16	(有)アート設計	郡山市	増子 健二	測量設計
17	(有)坪倉土質調査設計	田村市	坪倉 新治	測量設計
18	(有)石井測量設計事務所	田村市	石井 茂一	行政書士・測量設計
19	NPO法人 福島おらが街ふるさと創り研究会	理事長	蒲生 康博	測量設計
20	たむら農業協同組合	田村市	富塚 正	金融・保険
21	(株)大東銀行	取締役社長	鈴木 孝雄	金融
22	朝日火災海上保険(株)	郡山市	中山 琢也	保険
23	(有)遠藤総合保険	田村市	遠藤徳喜代	保険
244	(有)佐々木商店	田村市	佐々木俊雄	燃料・太陽光
25	(株)久保屋	三春町	佐久間喜久	燃料
26	郡山生コン日和田(株)	郡山市	綾 哲志	生コン
27	(株)宇佐美興産	いわき市	宇佐美博幸	農業
28	浅井嗣夫法律事務所	郡山市	浅井 嗣夫	弁護士

※提案様式2-1に記載できない会社を記入してください。

今後、連携を検討している業種及び会社数

業種	会社数	業種	会社数
工務店	10	ファイナンシャルプランナー	5
林業	3	宅建業	3
金融	3	弁護士	2
造園	3	税理士	2
行政書士	2		
司法書士	2		
土地家屋調査士	2		
除染組合	4		

(提案様式3)

団体の活動内容 (実績)

団体の過去3年間における活動内容 【住宅には『木造公営住宅』含む】

1. 年間住宅設計棟数 (団体内の設計事務所合計の3年間平均)

20 棟 うち、設計性能評価取得 0 棟
 うち、長期優良住宅の認定 0 棟

2. 年間住宅新築施工棟数 (団体内の工務店等合計の3年間平均)

50 棟 うち、建設性能評価取得 0 棟

3. 年間住宅増改築施工棟数 (団体内の工務店等合計の3年間平均)

50 棟

4. 年間土地販売件数 (団体内の宅建業等合計の3年間平均)

20 件

5. 県産材・地域材の活用実績 (○をつけてください)

- (a). 材料の半分以上は県産材・地域材を活用 b. 建て主の要望に合わせて対応
c. 材料があれば県産材・地域材を活用 d. 県産材・地域材は活用したことはない

6. 再生可能エネルギーの導入 (○をつけてください)

- a. ほぼ100%導入している (b). 建て主の要望に合わせて対応
c. 利用したことはない

7. 景観、地域特性への配慮 (項目ごとに○をつけてください)

- a. ほぼ100%配慮している (b). 建て主の要望に合わせて対応
c. 配慮したことはない

8. 各種手続き等代行 (項目ごとに○をつけてください)

①登記 ②減税 ③融資 ④保険

- (a). (a). (a). (a). 代行 (協力) を常に行っている
b. b. b. b. 建て主より依頼があればしている
c. c. c. c. 行っていない

9. 施工した住宅の維持管理 (○をつけてください)

- (a). 期間を定めて点検 b. だいたいの期間が過ぎたら点検
c. 建て主の依頼に合わせ点検 d. 点検業務は行わない

10. 住宅情報履歴の作成 (○をつけてください)

- (a). 新築だけでなく、増改築時でも作成 b. 新築時のみ作成
c. 要望があれば作成 d. 作成したことがない

11. その他、実績のPR (カッコ内を参考にし、削除して記載してください。)

「県産材の安定確保」 「被災者の住宅相談」 「若手の育成」
「団体独自の技術 (工法) を開発・普及」 「地域産業の活性化に寄与する活動」
「省エネルギー・再生可能エネルギーの活用」 「住宅履歴情報」 「仮設住宅建設」
「団体の連携を広げる (企業組合、協同組合・NPO法人の設立)」

(提案様式4-1)

団体の基本方針・具体的手法

※「基本方針例(別紙Ⅱ)」を参考にしてください。

1. 連携体制の規模、多様性

(基本方針) 本会は県中地区を中心に、設計事務所、工務店、林業、製材業、宅建業、資材販売業、金融機関、行政書士等住宅建設に関わる専門事業者(会員)が結集し、東日本大震災により被災した方々において生活再建の基盤となる住宅を復旧するため組織された団体である。

会員相互間は緻密な連携体制を形成し、住宅建設に関連する広範な分野の事業者が合理的に連携した体制及び供給システムを構築している。

また、会としての定款または会則等を整備し、会運営の安定性も確保されている。

(具体的手法)

設計事務所は、デザインの共有、知識・技術力の向上、相互チェックによる安全性の向上をめざしていく。林業・製材業は、定期的な資材提供による森林保全と県産材の安定供給の体制を確保していく。工務店は、現場への適正な人員配置・応援体制を図り、技術力の向上・継承、長期にわたるメンテナンスのフォロー体制をとり、住宅供給からメンテナンスまで一元的に管理する。宅建業・資材販売業・金融機関(ファイナンシャルプランナー)・行政書士等と連携体制を図り、合理的な供給システムを構築していく。

2. 事業の実現性(供給計画 3カ年程度)

(基本方針) ふるさと福島復興プロジェクトチームは長期にわたる連携体制を実現しており、検討している供給システム並びに供給計画(3カ年程度)は実現可能なものとなっている。また、それぞれの会員は長く地域で事業を営み、各分野での十分な過去の実績を有している。

更に、今後、団体解散後の規定も策定し事業終了後の対応においても実現性がある。

(具体的手法)

ふるさと福島復興プロジェクトチームによる「ふくしまの家」復興住宅の取り組みに当たっては、供給計画等事業の実現性を図るため定期的に全体会議や専門部会を開催し事業の進捗を管理していく。

また、今後、3カ年程度における実現可能な具体的供給計画は以下のようになる。

○1年度

○2年度

○3年度

合計 100棟

合計 300棟

合計 500棟

3. 復興住宅コンセプト (維持管理、プラン、環境対応、コスト、地域性等)

(基本方針) 本会は、維持管理が容易な 30 坪の平屋建てとし、バリエーションを選択できるフレキシブルな正方形プランである。トップライトによる採光や高い断熱性能と通気の確保、ソーラーパネルによる発電、エコキュート、LED 照明の採用による省エネを実現する。クロスや塗装などの仕上材、ふすまや障子を未完することで、建設工期短縮と低コストを実現する。地域性を考慮して、あぶくま山系にみられる特徴的な屋根形状を継承したデザインとしている。

(具体的手法) 本会による復興住宅コンセプトの具体的な概要は以下のようになる。

1. 長期利用が可能とする。
2. 将来性のあるプランとする。
3. 環境対応に配慮する。
4. 廉価を原則とする。
5. 地域適合を目指す。
6. 需要対応にゆとりを持つ。

4. 品質、性能確保

(基本方針)

長く品質を確保するために、建物の通気を確保し、地域に合わせた断熱性を考慮する。シンプルな形態で見える構造とすることで、劣化を防ぎやすいデザインとしている。放射能の値についても測定し、学術研究機関と連携しながら、独自の使用基準を作成し管理の徹底を図る。

(具体的手法) 土台にヒノキを採用し、土台下通気で床下通気を確保する。外壁と軒裏の通気も確保しつつ、室内の空気も循環しやすい空間構成となっており、中央のトップライトから屋根の妻面を利用して排気する。防腐処理を行うが、室内を真壁、梁表しなどにより構造材のコンディションを常に把握できるデザインとなっている。開口部も Low-e のペアガラスとし断熱性能確保する。使用部材については、使用マニュアルを作成する。

5. 県産材・地域材の活用

(基本方針)

県産の木材を使用することを基本とする。木材は、間伐材の利用を積極的に行う。県産材は、木材ばかりでなく、屋根材、内装材にも及び、地産地消にもとづく地域経済の活性化を促すとともに、県産材の使用は、森林の整備、除染活動の一助ともなる。

(具体的手法)

構造材には県産の木材を使う。外壁材や造作材には、県産のスギの間伐材を採用する。木材ばかりでなく、瓦やタタミなども県産材を採用する。内装の壁面は仕上げ無しのため、住まい手側から左官仕上げの要望の可能性も残しておく。

6. 各種手続き代行

(基本方針)

ふるさと福島復興プロジェクトチームでは、住宅建設のみならず住宅建設に関して発生する資金計画の相談、登記の手続き、減税手続きの書類作成等、火災保険等の紹介等の各種手続きを代行する体制を構築する。

(具体的手法)

具体的な各種手続きは代行は以下のようにする。
設計事務所・工務店・製材業を中心として、施主をとりまくフローチャートを作成し、ファイナンシャルプランナー・行政書士・保険会社・銀行を一元的にとりまとめる。

7. ふくしま（地域）らしさの取り入れ

(基本方針) 「ふくしまの家」復興住宅は居住する方々の求める居住の快適性追求は当然ながら、あぶくま山系から双葉地方の住居は入母屋風の民家が一般的であり地域の景観・気候・風土に十分配慮し、加えて、可能な範囲で地域文化や伝統技術も取り入れ平屋建（入母屋風屋根）とし、昔ながらのなじみ深い高齢者も住みやすい住宅を提供し、ふくしま（地域）らしさを表現していく。

(具体的手法)

福島県の持つ豊かな自然に調和したデザイン、素材の使用を原則とする。また、冬季での厳しい寒さに対応した保温性の確保、夏季の湿気に対応した工夫など福島県の気候や風土に配慮した家づくりを実現する。

8. 地域における先導性（活動）

(基本方針) ふるさと福島復興プロジェクトチームによる「ふくしまの家」復興住宅建築においては、単なる復興住宅建築に留まらず、地域の模範となる住宅づくりを目指す。「ふくしまの家」復興住宅計画においては、被災者の方々の定住促進、及び地域雇用の確保、増大につなげることを根本的な目的として事業を推進する。

(具体的手法) 本会では、「ふくしまの家」復興住宅事業の円滑な実現を図るため定期的に全体会議や専門部会を開催し、地域住民を取り込んだ各種研修会や地域との交流会を実施し、地域の意見を吸い上げる。また、地域住民への相談会も実施し、地域発展のため若手の担い手育成事業も行う。

9. 原子力事故及び風評被害対応

(基本方針) 現在の福島県においては原子力事故及び風評被害に対応していくことが最大の課題となっている。よって「ふくしまの家」復興住宅建築においてもその点に十分な配慮を行うものとする。

特に、敷地、土壌の放射能に対する対処、木材等の放射能に対する対処には最大の留意を払う。

(具体的手法) 「ふくしまの家」においては、住宅建築の基本である木材、資材に関しては、事前の放射性物質の検査を徹底し、放射性物質の検出されない部材を使用することにより、居住者が安心して長期的に利用できることを原則とする。また、敷地、土壌の放射能に対する対処においては、放射性物質除去事業等を目的に設立され、本会員も一部参画する「ふるさと福島復興企業組合」及び「あぶくま未来復興企業組合」並びに「田村太陽光発電所企業組合」等の団体との連携において対応する。

10. 省エネルギー、再生可能エネルギーの活用

(基本方針) ソーラーエネルギーやヒートポンプを利用して、給湯や発電を再生可能エネルギーにより積極的に行う。断熱性能の確保、室内通気の確保、LED 照明の採用、トップライトによる採光などによりエネルギー負荷を抑える。正方形のプランは冬期の断熱性能を高くするものである。

(具体的手法) 南面屋根にソーラーパネルを設置し、パネルの勾配角度を確保できる屋根勾配としているが、室内は余剰の空調負荷を抑えるために天井勾配を低くしている。開口部におけるガラスは Low-e のペアガラスとしており、通風を確保しやすい位置に配置している。正方形プランの中央は、暗くなる場所だがトップライトにより明るい採光を確保し、夏期の熱気は室内に漏らさず外部へ排気できるように計画し、エネルギー負荷を抑える。



外観

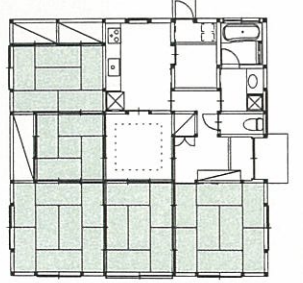
■復興住宅コンセプト

ふるさと福島復興プロジェクトチームによる「ふくしまの家」復興住宅は、維持管理が容易な平屋建てとし、被災者が暮らしやすいように住まい方のバリエーションを選択できるフレキシブルな正方形プランである。環境対応としては、トップライトによる採光や高い断熱性能と通気の確保、ソーラーパネルによる発電、エコキュート、LED照明の採用による省エネを実現する。コストは、30坪建てとし、クロスや塗装などの仕上材、ふすまや障子を未完とすることで、建設工期短縮と低コストを実現する。地域性を配慮して、阿武隈山系の民家にみられる特徴的な屋根形状を継承したデザインとしている。

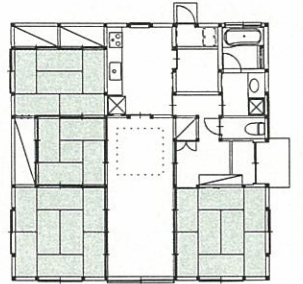


福島に多くみられる茅葺き屋根の上に鉄板をかぶせた民家の屋根形態

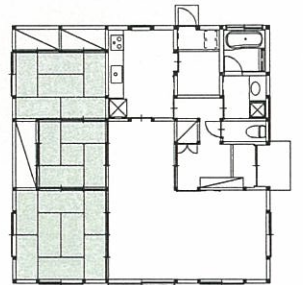
■プランのバリエーション (S=1:300)



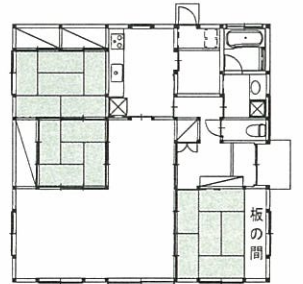
パターンA



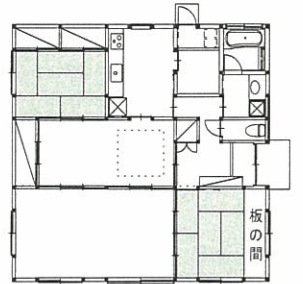
パターンB



パターンC



パターンD



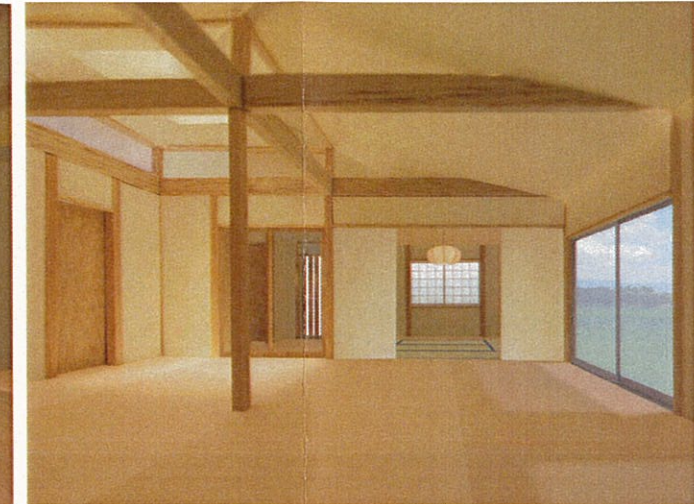
パターンE



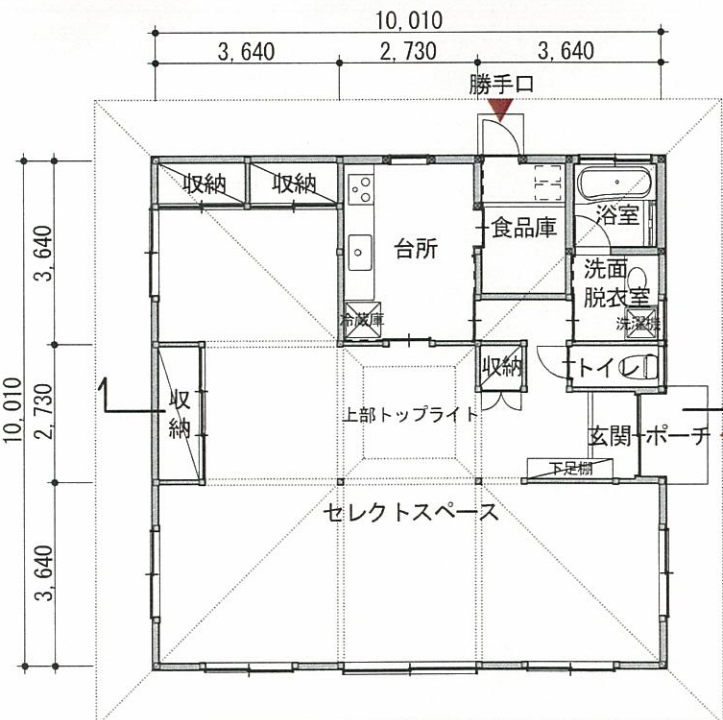
パターンF



初期段階内部 南から台所入口をみる



和室を設置した内部 西から東をみる



■建築概要

構造規模：木造平屋建て（在来工法）
床面積：100.20㎡（30.31坪）
概算建設費：1,500万円

外部仕上

外壁：スギ板縦貼（間伐材）
屋根：選択方式
（ガルバリウム鋼板、瓦、スレート、ソーラーパネル設置）
建具：アルミサッシ、木製建具（玄関のみ）

内部仕上

床：選択方式（フローリング、タタミ）
壁（真壁）：石膏ボード貼
天井：石膏ボード貼

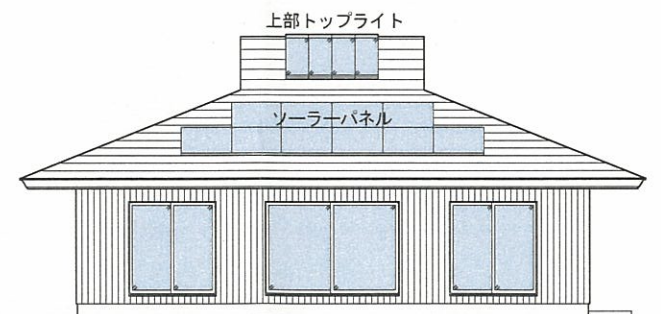
設備

LED照明、エコキュート、エアコン、床暖房

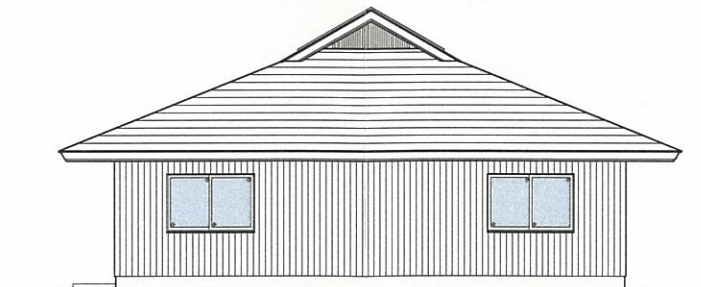
※個別対応により変更可能とする
※エコキュート寒冷地仕様の場合、玄関脇にある収納に室内型を設置する
※バリアフリー対応として玄関ポーチにスロープを設けてタタキ高さを調整する

■団体概要

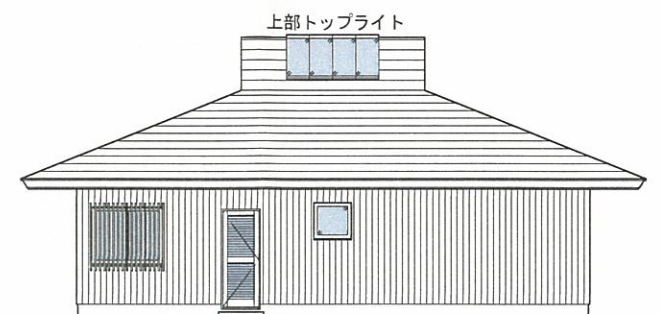
ふるさと福島復興プロジェクトチームは県中地区を中心に設計事務所、工務店、林業、製材業、宅建業、資材販売業、金融機関（ファイナンシャルプランナー）、行政書士等住宅建設に関わる専門事業者が結集し、東日本大震災により被災した方々において生活再建の基盤となる住宅を復旧するため組織された団体である。会員相互間は緻密な連携体制を形成し、住宅建設に関連する広範な分野の事業者が合理的に連携した体制及び供給システムを構築している。また、会としての定款または会則等を整備し、会運営の安定性も確保されている。



南側立面図 S=1:150



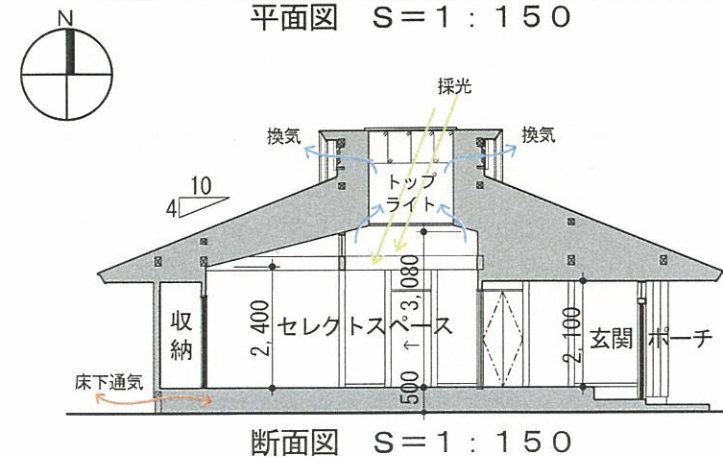
西側立面図 S=1:150



北側立面図 S=1:150



東側立面図 S=1:150



断面図 S=1:150